

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の掲げる理念「人を一番大切にします」を目につく所に掲示している。また、事業所の理念は各フロアに掲示し共通意識を持つ事としている。	法人の理念の他に、毎年、管理者がホームの取組方針を3つ掲げている。職員は、目標管理で取組方針の1つを目標として掲げ、取り組んでいる。全体会議で振り返る機会を設け、全職員が理念を共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には可能な限り参加している。またその際には、職員と利用者の間だけでなく、地域の方々とも一緒になって楽しむようにしている。	フラワーアレンジメント・話し相手・調理・ピアノ弾き語りのボランティアが定期的に来訪しており、利用者の楽しみとなっている。利用者が学童クラブで定期的に紙芝居をしており、お礼に年2回来訪し踊りを披露してくれる等、地域と繋がっていけるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に積極的に出向くことで、支援の必要な高齢者の存在を認識して頂けるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催、ホームの状況報告・活動報告・事故報告やヒヤリハット等報告し問題点等の改善に協力を頂いている。	民生委員・包括・家族会会長・利用者代表・近隣介護施設の方2名の出席で定期的開催している。ホームの現状を報告し、意見交換している。昨年、水害後に避難体制について相談し、近隣介護施設と連携を図り、協力関係を築くことができた例がある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月月刊誌の配布により、法人や事業所の取り組みが伝わるようにしている。また、配布の際には手渡しを心がけている。	区の高齢介護課に、広報誌を定期的を持って行き、その際にホームの状況報告や相談等行ったり、抱えている課題も気にかけてくれており、アドバイスをもらっている。市主催の研修に参加したり、情報共有し、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除く一切の施錠をやめた。また拘束について、広義でとらえるようにしている。	全体会議時の勉強会で、言葉の抑制・無意識にしている拘束や好きな時に動けないのも拘束だということを話し、拘束と危険防止はイコールではないことを全職員が理解し、注意を払っている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束同様に常に広義でとらえ、また職員同士が注意できるように心がけている。	ホーム独自のコンプライアンスルールで意識付けしている。例えば、ご飯いらぬという利用者の言葉には、なぜいらぬのか原因を探り行動することが必要と説明し、いらぬから食べないでいいという考えは介護放棄になってしまうことを伝えており、全職員が理解して防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を受けている利用者の入所もあり、職員間での理解も広がってきているが、まだまだである。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書については十分な時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とともに、普段から家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。訪問時は必ず現況報告をし、要望があった時は検討し「出来ること」は即実行している。	年2回、家族会や文化祭時にアンケートを実施している。また、面会時に意見を聞いたり、遠方の方には、電話で聞いている。要望はあまりないが、食事内容や職員の入れ替わりの報告について意見があり、検討していきたいと考えている。	言うことをためらう利用者や家族の心情を察し、ホーム側の姿勢、改善の経過や結果を丁寧に伝えていく更なる取り組みが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は社員会議を設けるなど、意見、提案が出しやすい環境を作られている。	全体会議の他に、日頃から何でも話せる環境を作っている。緊急時の連絡体制で夜間の連絡体制を作成したり、緊急時の対応で判断が難しいことから医療連携を取り入れた。また、買い物ネットスーパーに変更し、利用者と関わる時間を増やす等、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの評価他、さまざまな研修や資格の取得など職員の質の向上への支援がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については社内での年間計画を基に、内部・外部研修を多く取り組む機会があり、社員のスキルアップを惜しまず会社ぐるみで実施している。又それ以外でも事業所独自での勉強も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護事業所の運営推進会議に管理者は定期的に参加し、また職員も、他事業所へ研修に音連れる機会を設けている。行事がある時は声をかけあい、利用者とともに参加しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートの活用、日々の気づきのエピソードシートや家族からの情報収集などで本人が安心して暮らせるように本人本位の支援に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には細かく、本人、家族を含めて要望等を伺い、悩み等に関して、可能な限り力になれるよう関係性築いている。また、入居時には、職員配置を一人増やすなどの工夫をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が何を必要としているのか細かに聞き取りを行い、他のサービスを取り入れる必要のある時は、家族と話し理解を深めて頂いている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、生活支援者であることを意識し、なにより利用者との人間関係の構築に、重点を置いている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族が来訪しやすい環境を心掛け、また時には家族に対し、職員と共に、介助の体験をしてもらっている。	餅つき・文化祭・年2回の食事会等、家族とふれあう場面を設けている。家族に協力してもらい外出支援したり、家族が帰る際、玄関先に利用者を見送りに出ることで歩行状態を見てもらい、家族と介護方針を共有し、利用者や家族の関わりを大切にしている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や昔からの友人が出入りしやすい環境づくりに努めている。また、実家や友人の家に遊びに行く援助も行っている。	利用者の知人が近隣介護施設を利用しており、施設と協力して行き来する関係を構築している。会話の中から聞き取り、神社や実家の仏壇参り等支援している。友人が美容院に一緒に行こうと誘ってくれたり、家族協力で墓参り等出かけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ADLや認知症の進行に格差が生じている中、利用者同士が支えあい、それが生きがいになるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となっても、その後の様子や状況を伺い、お便りを出したり、見舞ったりして関係性を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中のエピソードを書き留め、本人の思いを大切に少しでも自分らしく生活できるよう支援している。	マンツーマンでの関わりを大事にしており、気づいたことはメモに残し、どんなことを楽しみに思っているのかを共有している。又把握が困難でも思いが無いわけではなく、寄り添い気持ちを汲み取ることに努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの歩みをセンター方式に示し、内的体験に耳を傾け、本人のなじみの暮らしを深く知るように努めている。	訪問時本人の部屋で面談させてもらったり、入居後は一緒にテレビやアルバムを見ることで情報を得ることがある。帰宅願望のあった方が入居前の生活環境に近づけたことで落ち着いたこともあり、これまでの暮らしの把握に努め、自分らしく暮らしていくことを支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の発する小さなサインを見落とさない目と心を養い、変化のあった時はその現状の把握と改善に努め、全員が情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生きる意欲や力となる事を日頃の生活の中から見出し、ケアカンファレンスの場で活動・参加を積極的にできるよう家族も含め話し合っている。	家族にも理解が得られるよう分かりやすい言葉を使用し、又生活動作をする中で機能低下が予防できるような計画作成に心がけている。居室担当が家族に意向を聞き、3ヶ月に1回ユニット会議で評価、半年に1回見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子などが生じた時は、より詳細に記録。心身の様子、精神面等も含めて随時送りで情報の共有をする。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりに捉われない、臨機応変な対応、いつでもお出かけ、喫茶店・食事・散歩・ドライブ・家での暮らしぶりに近い支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の活用、近くの喫茶店でのくつろぎ、買い物も積極的に出かけるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を利用する場合は家族が基本として説明同意を得ている。それ以外は当協力医への定期受診、緊急時の対応など含めて適切な医療が受けられるよう支援している。	基本的には家族の同行でかかりつけ医に受診しており、その際情報提供を行い必要があれば職員も同行している。緊急時と協力医への定期受診は職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の様子を観察し、必要時、かかりつけ医の医師・看護師に相談し助言を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しても時々様子を見に行き、関わりの中で意欲づけをしている。出来るだけ早く退院し馴染みの場所で生活できるよう医師と情報交換をし、退院後も受け入れている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合い(家族会等)全員で事業所の方針を共有している。事業所としてできる事を明確化し取り組んでいる。家族からの理解も頂いている。	現状では看取りは不可能と考えている。入居時家族に指針をもとに説明し同意を得ることの方針を共有している。グループホームを必要としている人の力になりたいという思いから要介護度の高い利用者が多い中、出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変時の対応マニュアルを独自で作成し、訓練もしている。救急対応に戸惑わず準備ができるよう実践力をつける勉強会の実施も行っている。	救急法を受講している。医療連携体制をとり、何かあれば看護師に連絡、相談している。事故や急変に対し予防も重要と考え、変化を見逃さないよう観察しているが、さらなる早期発見のため、緊急時に備え作成した介護要約を活用したいと考えている。	職員は利用者と一緒に近い関係にあり状態の変化に気づく役割を担っている。介護要約の情報を共有し、看護師の指導のもと観察のポイントについて学ぶことで、早期発見に取り組まれることに期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回以上の避難訓練の実施をしている。独自の方法で町内全域に回覧し「もしも…」の時の協力を呼び掛けている。	消防署から、1番難しい想定で毎回訓練を行なうことを勧められ、夜間1階での出火を想定し行なっている。又初期消火や非常口の確保、誘導方法などアドバイスももらっている。近隣の介護施設と合同避難体制をつくり連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	正社員を中心に、職員同士でモラルの逸した言葉かけにならないように、注意し合うようにしている。	コンプライアンスルールを掲示し、プライバシーを損ねないような言葉かけを意識づけている。又居室はその方の家なのでノック、一礼して入っている。本人の気持ちを大切に考え、職員にどのように接してほしいかを理解した上で関わるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の何気ない言葉を聞き逃さず、できる事は実践している。また、何をすることも本人に意思確認をし柔軟に対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が職員の都合、事業所の都合になっていないか常に確認し、可能な限り利用者のやりたいことを支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる利用者のみではあるが、毎日のお化粧品や本人の希望する衣服での外出や希望する美容院・床屋など、又は希望の衣服の購入などを実践してもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る人、味見をする人、片付ける人、食器を洗う人、拭く人、職員が関わりながら負担にならないよう、楽しむことができるよう取り組んでいる。	会話や残ったものなどから好みを知り職員が献立を立てており、又食材の大きさや軟らかさ、味付けなど出来るだけ希望にそえるようにしている。調理や片付けは利用者と一緒にしている。月見団子や干し柿作り、餅つきなど季節に応じて食事を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は栄養バランスを考えて立案同じ物が続かないようにチェック。利用者に合わせてミキサー食の用意やおかゆの対応もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人のレベルに応じた歯ブラシや舌ブラシ他、個別性を活かし、さまざまな対応をしている。又三食後の口腔ケアでカテキン効果を狙い緑茶を使用したうがいをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとに排泄パターンを把握し、自立を促す対応を心掛けている。安易なパット使用やオムツ使用はしないようにしている。	排泄チェック表を用い誘導している。可能な限りトイレで排泄することを支援しており、身体機能に応じて必要な介助をしている。排泄動作が楽しく気持ちよくできるよう、意欲を引き出すような言葉がけに努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう、献立には食物繊維や、乳製品をバランスを考え組み込んでいる。また、日常生活の中で体を動かしてもらい、胃腸の動きを促進している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴時間は設けてあるが、それ以外でも可能な限り希望に沿うようにしている。	毎日入りたい方や夕方入りたい方などなるべく希望に応じている。入りたくない理由が化粧を落とさないからということがわかり夜入浴してもらった方もいる。入浴時は職員と1対1でゆっくり関わり、又季節に応じて菖蒲湯や柚子湯にして楽しく過ごせるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ADLの特に低下している利用者に対しては、状態を見て、日中でもベッドで休んで頂いたり、身体的負担がないようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は様子観察に努め状態を医師に伝えられるようにしている。また、利用者の状態変化に対して、「薬の影響もあるかも」と念頭に置くように心がけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、あらゆる生活行為の中で、無理強いせず、役割感を感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の植物園や喫茶店、美術館、水族館、外食、散歩など家族の協力も得ながら実施している。	職員とマンツーマンで外出することで得られる喜びは大きいと考え、個別の希望に応じて積極的に出かけている。家族からも散歩など協力を得られており、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のもっている力に合わせて自分で支払いをして頂いたり、また自分の意思で使えるようにしている。家族了承のもと、自己管理をしている人もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやりとりを言葉かけにて実施したり、家族から電話が入った時は必ず本人が話せるようにし家族の安心につなげている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族を含めた写真や作品、季節を感じられる飾り付けや生花なども飾っている。ソファやいすなども様々な場所に配置し、好きな場所で好きなように過ごしてもらっている。	行事の時の写真や作品などが掲示され温かい雰囲気である。ソファやテーブルの配置に配慮し、1人のテーブルや作業のできるテーブルなど利用者に居心地が良く過ごしやすい場所を選んでもらえるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭が望める窓際であったり、手作業の出来るスペースであったり、環境に左右されずに、思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使っていた家具やベッド、仏壇や、タンスなど本人にとって、思いの深い物を自由に持ち込む事で暮らしの安心がある為、自由に受け入れ、対応している。	安全面に配慮した上で、本人が生活しやすい居心地の良い空間作りに配慮している。整理整頓されていることが必ずしも良いとは限らず、本人の思いを一番に考え自由に暮らしてもらっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境面に危険はないかチェックするとともに、利用者の活動しやすい環境を整え対応している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					